長野県神社庁報　第119号
平成26年８月１日　発行：長野県神社庁　庁報発行委員会・庁報編集委員会
（長野市箱清水1-6-1　電話026-232-3355　FAX026-233-2720）

東海五県 神社庁連合総会 開催

鷹司尚武神宮大宮司、田中恆清神社本庁総長等　象山神社正式参拝（平成26年4月24日）

目次

日誌抄・本庁表彰式　2・3
東海五県神社庁連合総会　4
東海地区女子神職研修会　5
戦艦大和　上映内容について　6・7
第十九回子供参宮団　8
神宮特別研修会　9
長野県神道青年会　創立65周年
支部だより（南安曇支部）　10
神社のいろは②（祭祀委員会）　11
神道を考える（その②）　12・13
沖縄「信濃の塔」慰霊戦跡巡拝の旅　14・15
北マリアナ諸島戦没者
慰霊事業に参加して　16
総代だより（長野支部）　17～19
御造営フォトニュース　20
新任神職の横顔　21
辞令　22
平成二十六年度神社庁歳入歳出予算書・
同災害救助慰藉予算書　23
暑中見舞　24
総代・一般向け専門書籍のご紹介　25～27
28

天皇陛下御製　サイパン島訪問　二首（昭和十九年、サイパン島玉砕より七十年）

サイパンに戦ひし人その様を浜辺に伏して我らに語りき

あまたなる命の失せし崖の下海深くして青く澄みたり

日誌抄

（平成二十六年一月～六月）

＊教…教化部の略

一月

十七日　新年初会議
二十日　教化部合同会議
二二～二三日　東海五県神社庁事務研修会
於　岐阜県
二九日　正副庁長会
二九日　別表・特別神社宮司会
三一日　辞令伝達式
三一日　県内東海五県評議員会

二月

五日　中信地区氏子総代研修会
五～八日　長野県遺族会
「沖縄信濃の塔慰霊祭」
奉仕　上伊那支部
七日　連合大会打合会
十三日　東信地区氏子総代研修会
十四日　神政連長野県本部役員会
十四日　理事会
十八日　北信地区氏子総代研修会
十九日　神宮大麻暦頒布委員会
二十～二一日　東海五県神社庁教化
神政連合同会議
於　岐阜県（鵜匠の家すぎ山）
二一日　南信地区氏子総代研修会
二四～二五日　神政連第十二回時局対策
連絡会議　於　本庁
二五日　神社本庁地区教化
講師連絡会　於　本庁
二六日　教・調査委員会
二七日　神宮大麻暦頒修奉告祭

三月

三日　教・青少年対策推進委員会
四日　神宮大宮司御招宴
五日　神宮大麻暦頒布終了奉告祭
五日　神宮大麻暦頒布奉季推進会議
於　神宮会館
七日　理事会
七日　第八十四回神社庁定例協議員会
七日　式年遷宮奉賛会
長野県本部解散式
十二日　於　ホテル国際21
教・祭祀委員会
十八～十九日　神宮特別研修会
二十日　事務担当者会
二十日　神職総会
二四日　皇太子殿下御一家御奉迎
二四～二五日　第十九回子供参宮団
二七日　人事諮問委員会
二七日　神政連長野県本部代議員会
二九日　皇太子殿下御一家御奉送
三一日　神宮大麻暦頒布常任委員会

四月

四日　連合大会打合会
七日　連合大会企画打合会
九日　辞令伝達式
十日　理事会
十日　県内東海五県神社庁評議員会
二三日　東海五県神社庁評議員会
於　松代ロイヤルホテル
二四日　第六十九回長野県神社庁
長野県総代会連合大会
於　ホクト文化ホール

五月

七日　庁報編集委員会
十三日　教・祭祀委員会
十五日　教・教化委員会
　於　木曽
十九日　教・青少年対策推進委員会
二十日　全国神社総代会代議員会

二四日　東海五県神社庁連合総会
　於　ホクト文化ホール

二一日　本庁表彰式
　於　明治記念館

六月

二二～二三日　神社本庁定例評議員会
二三日　班幣式
　神社庁長会
二七～二八日　祭式指導者研究会
三十日　辞令伝達式
三十日　教化部役員会

二～三日　中信地区連絡協議会

三～四日　「自然環境シンポジウム」
　於　神宮会館

五日　教・調査委員会
六日　教化部合同委員会
十一日　神政連本部長会
　事務局長連絡会
　於　神社本庁
十二日　神政連中央委員会
　於　神社本庁
十六日　神宮大麻暦頒布委員会
十八～十九日　神社庁事務担当者会
　於　神社本庁
二三～二七日　東海五県中堅神職研修会
　当番　長野県
二五日　庁報編集委員会
二九日　第三回神社検定
　於　神社庁・四柱神社

神社本庁表彰式　功労者を顕彰

神社本庁表彰式が五月二十一日池田厚子神社本庁総裁が御臨席のもと、東京の明治記念館で行われた。

奉仕神社の施設経営に尽力した功労者、敬神の念が篤く多年神社の経営に協力した功労者として神職・役員・総代等二百六十二名が晴れの栄に浴した。

本県では次の四名が栄誉を受けた。

◆平成二十五年度功績表彰

表彰規程第三条第二号　表彰状

小井川賀茂神社宮司　有賀　寛典
小内神社宮司　片山　昭
宮前神社宮司　宮川　直機

表彰規程第三条第三号　表彰状

平賀神社役員　高橋　登

東海五県神社庁連合総会

東海五県神社庁連合総会が四月二十四日、長野市のホクト文化ホールで開催され、神社関係者約二千人が出席した。

開会儀礼の後に、当番県神社庁を代表して藤井茂信庁長が挨拶。昨年の第六十二回神宮式年遷宮が、かつてないほど大きく好意的に報道されたことを踏まえ、「今を絶好の機会と捉え、神宮大麻頒布活動が着実に実を結ぶような、教化活動のさらなる推進に取り組んでいきたい」と述べた。

続いて神社本庁統理（代理・田中恆清総長）が告辞を、鷹司尚武神宮大宮司、長曽我部延昭神道政治連盟会長、加藤久雄長野市長らがそれぞれ祝辞を述べた。

議事では藤井庁長が議長となり、先ず前年度当番県の岐阜県神社庁が昨年の提出議案に関する経過を報告。次いで「憲法改正に向けた対策や各方面への働きかけ」「英霊顕彰のための内外に向けた活動」を要望する提出議案や、「神宮式年遷宮の盛儀を機にさらなる神宮奉賛活動に邁進するとともに、次期遷宮に向けて青少年の参宮促進を図る」との申し合わせなど五項目を可決した。

また総会の宣言については、神宮式年遷宮の斎行にあたり、「日本文化の原点を継承する神宮へ尊崇の念をさらに深め、伝統に根ざす日本の心や日本人が美徳とする価値観を顕示しつつ、次代へ伝えるべく振起邁進する」旨を採択した。

最後に次年度当番県である三重県神社庁の石上紀男庁長から挨拶があり、万歳三唱の後、総会は閉会した。

なお、同日午前には、鷹司尚武神宮大宮司はじめ、田中恆清神社本庁総長、小串和夫同副総長、長曽我部延昭神道政治連盟会長ほか東海五県神社庁役員らは長野市松代町を視察した。

参加者は、まず象山神社（瀧澤基宮司）を正式参拝。鷹司大宮司、田中総長らが玉串を奉り拝礼を行ったあと、瀧澤宮司が神社の由緒や祭神・佐久間象山について説明した。その後、大東亜戦争末期に政府各省などを移すため建設された「松代象山地下壕（松代大本営）」を見学した。

参加者は途中、大本営と皇居が移る予定だった舞鶴山、皇族の住居となる予定だった皆神山を眺めながら、ボランティアガイドから位置関係などの説明を受けた。その後、総延長六キロにも及ぶ松代象山地下壕の一部を実際に入壕して見学した。

引き続き、同町出身で第百九師団長として硫黄島守備の指揮を執った栗林忠道中将（のちに大将）の墓碑のある明徳寺を参拝し、同寺関係者から説明を受けた。

東海地区女子神職研修会

長野県女子神職会　猿田　英里

毎年、東海地区五県を其々巡るこの研修会は今年三重県が担当し、三月十四日神宮を会場として開催された。外宮に集合の後、三重県女子神職会関係者の説明を受けながら古殿地拝観を行った。前日に横なぐりの大雨に見舞われた為、皆傘を持参したものの、一転快晴に恵まれての拝観となった。御垣内での拝礼の後、裏の西御門から古殿地に足を踏み入れ、説明のままに新旧其々の千木を拝すると、苔生した旧御本殿には細かな装飾が施されているのに対し、新しい御本殿の彫金には華美な装飾は見当たらず、無駄の無い簡素な造りとなっている事に驚いた。全く同じものを御敷地に新調するものとばかり思っていたが、より古い形を踏襲した為、この様な違いが生じたのだとの説明を受けた。

その後、参加者は神宮会館へと移動し、和やかに昼食をとった後、東日本大震災犠牲者に対し黙祷を捧げ、開会式を執り行った。

講演では、神社本庁長老で、二見興玉神社片岡昭雄宮司様より、若かりし頃の修業時代のお話や、神職としての姿勢と使命、又祝詞作文の心得と要領等を御講話頂いた。二見興玉神社では特に女子神職が多く職員として奉仕されており、受講生から「まだ女性の神職に対する風当たりが強く、女性が御祈祷を行う事に対し、参拝者から批判を受ける事があるが、その様な時はどの様に対応したら良いか」との質問に、「宮仕えする者の心構えや姿勢に男女の差は無く、参拝者に対し宮司として丁寧に説明し、誤解を解いていく事が肝要」とお示し下さった。

又研修会の終わりに、和布の装飾を施したメモ帳や、洗濯ばさみを綿や布で包み猫や鼠の形に縫い合わせた靴止めクリップ等、三重県女子神職会の皆さん手作りの品々をお土産に頂き、女性らしい細やかなお心遣いに心癒され帰路に着いた。大変有意義な研修会に参加させて頂いた事を強く心に刻み、こうした場での経験や、情報交換で得たヒントを日々の神明奉仕に少しでも生かしていきたいと思う。

東海五県神社庁連合総会記念上映について

教化部長　宇治橋　淳

四年前、第十回青少年靖國神社参拝研修旅行に同行し、遊就館売店で数冊の本を購入『戦艦大和砲声の謎』（宝島社）を開いてみると、一枚のＣＤが付録されていました。ＣＤには戦艦大和の建造から最期に至る経緯が語られていて、心に響くものがありました。終戦後、今日に至っても宇宙戦艦ヤマトの劇画等、青少年に夢と希望を与え続けている大和の艦霊……現今に生きる我々は何を学ぶべきか……。ＣＤを繰返し聴き、より多くの人々にこの大和の砲声を聴いて貰いたい、東海五県大会に是非にと思い、この旨を藤井庁長、富岡参事に相談、大会通例の講演会の代りに手作りの画像と音声の編集に取懸りました。出版社との交渉等は参事に、制限時間内に集約する音声、これに伴う画像収録に松井秀吾氏、平林秀文氏、参事に依頼し、広島県呉市の大和ミュージアム、遊就館、有賀幸作大佐記念碑、硫黄島玉砕の栗林大将墓所等の現地を訪れて、収録編集を重ね、理事会での試作上映を経て、今回の東海五県神社庁連合総会「鎮魂への想い」上映に至りました。

昭和16年9月20日　呉工廠　工事を急ぐ大和
右は目隠しの空母鳳翔　遠方は給糧艦間宮

●上映主旨

大東亜戦争で日本は約二五〇万人が犠牲となり、関係諸国も同様な犠牲者を出した。戦争の悲惨の時代を経て、日本は復興のために不断の努力と不屈の精神に依り見事に復興を果し、世界に寄与する国力を有した。日本は敗戦に至る経緯と戦争による犠牲の代償の重大さを学び、平和国家を目指して努力を続けている。大戦後、植民地体制のアジア諸国を始め、世界各民族は自立と団結に目覚め、独立戦争と言う更なる犠牲の代償を払い、新しい国家独立を果たし現在に至っている。

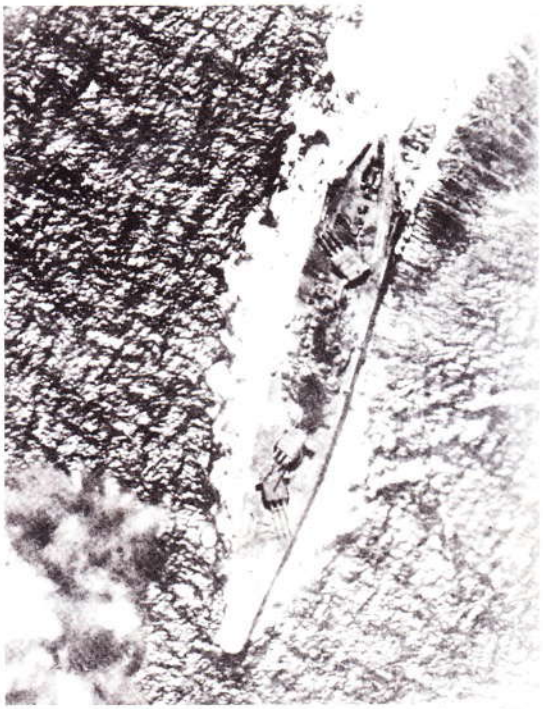
殉死された全英霊に対し、現在を生きる我々は何を想い、何をなすべきか、を問うべく、企画編集し、映像と音声によって上映提供を行なう。

昭和18年　トラック島泊地

上映概略

（一）昭和二十年四月七日菊水一号作戦として「大和（ヤマト）」は「矢矧（ヤハギ）」以下九隻の残存少かの

艦列を組み、一億総特攻の先駆けの任務を受け沖縄へ向った。乗組員の経験談も証言され大和の雄姿が語られている。米軍は戦艦六、空母六、巡洋艦七、駆逐艦二一、戦闘機延べ三八六、潜水艦三の圧倒的戦力を持ち、戦闘機による四波の攻撃を行った。激闘二時間半、大和以下六隻は撃沈、艦隊戦死三六〇四名、大和二四九八名、内東海五県関係七〇二柱、（三重県一七九柱、愛知県三〇三柱、静岡県二二柱、岐阜県一六六柱、長野県三二柱）。生存者僅か二八〇名であった。生存者八杉氏（当時一七才）の証言「あれ以来一日たりともうかうかと生きて来なかった……うかうかと死んで逝くつもりもない。今と言う時代はあの時もがきながら死んで逝った者達が生きたかった未来が今日だ！」



昭和20年4月7日　徳之島沖、米機の攻撃で爆沈した大和

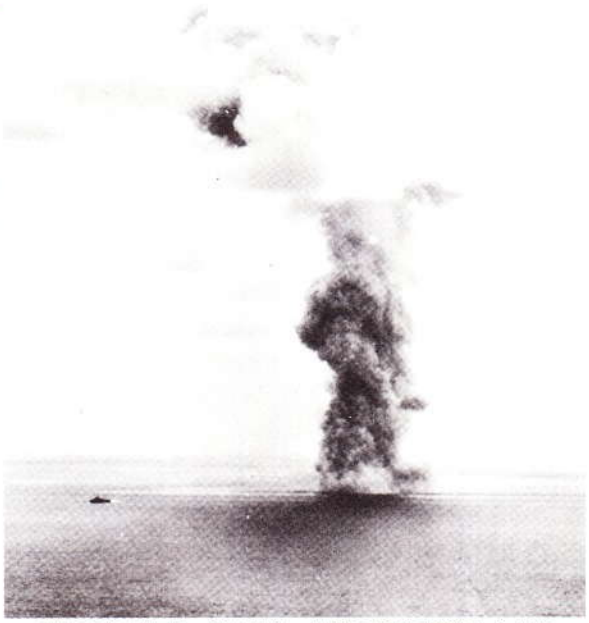
一億総特攻の先駆けで沈み、今なお海底に眠る大和艦隊の英霊たちに送る大和の砲声

（二）「大和」最後の艦長有賀幸作大佐（没後中将）記念碑の紹介と碑文

國に捧げた君たちの尊いのちよ
とこしえに世界平和のいしずえたれと祈る

（三）昭和十八年十月二十一日明治神宮外苑学徒出陣壮行式、学徒二万五千人「海行かば」大合唱の実録音声。

祖国のために散華した英霊の純粋な精神、祖国の未来を信じ、一命を投げ打って戦った人達、愛するものを護るために戦いに傷つき命を捧げた人達への鎮魂の想いを込め上映を終了。



昭和20年4月7日　徳之島沖、米機の攻撃で爆沈した大和

●結びに

国のため、世界平和の礎となられた全英霊に対し、一分間の瞑目黙祈（会場全員起立、「海行かば」の合唱音楽）を捧げ終結とする。

――以上がこの企画の概要でした。皆様各位の協力と賛同に感謝致します。

第十九回子供参宮団

青少年対策推進委員長　等々力 良勝

県神社庁教化部主催の第十九回子供参宮団が、三月二十四～二十五日に百十五名（内子供七十八名）の参加者で行われました。今回は昨年十月、第六十二回神宮式年遷宮が斎行されて麗しく見事に建て替えられた内宮、外宮を参拝。外宮では古殿を間近で拝観をする事ができ、また無い参宮団となりました。

早朝各地を出発したバス四台は、恵那峡サービスエリアに集合して結団式を行い、一路伊勢の地へ向かいました。昨年は遷宮が斎行され神宮参拝者は統計を取り始めてから一千四百万人を超えました。「おかげ年」である本年は大変混雑が予想され状況判断も難しいため、昼食は車中で取ることとしました。

各車において青対委員の学習係が神宮の説明を行い遷宮行事のＤＶＤ鑑賞や参拝作法、手水作法を実際の柄杓を使いながら研修をしました。

予定通り外宮に到着し、子供達は服装を正し手水で身を清め、新しく輝く外宮にて御垣内参拝を行い、その後旧御正宮を拝観しました。近くで見る旧御正宮等の建物の大きさに圧倒され、朽ち落ちた屋根の茅に二十年の月日の流れを感じていました。例年は、神宮職員による案内が有るのですが、遷宮行事もまだ多く有るために案内が頂けなかったのが残念であり、二十年に一度の機会である古殿拝観はただ見て通り過ぎるだけとなってしまい「委員会として子供達に説明が出来れば良かった。」との反省もありました。神楽殿にて神楽奉納を行い人長舞、倭舞、蘭陵王を奉納しました。長い時間の中では足が痛くなった者もいましたがしっかりと参拝を終えることが出来ました。

その後は宿泊先である神宮会館に移動した後、参拝観光客で賑わうおかげ横丁の散策を行い、参加者は朝からの緊張から解放されておみやげを買ったり、伊勢の名物を食べたり楽しい一時を過ごしました。

会館の夕食では食前食後感謝の意味を伝え、全員で唱和して食事を頂きました。その後、例年神宮職員による講話や火鑽り体験を行って頂くのですが、案内同様に不可能となり、本年は松井泰智委員による神宮についての講話が約一時間にわたり行われました。子供達に質問をしながら充実した話がなされ、一日目の参拝や講話を元に感想文を書いてもらいました。（この作文は後日伊勢神宮崇敬会主催「お伊勢まいり作文コンクール」に応募致します。）

二日目は、午前六時より内宮御垣内参拝に幼児を含む全ての参加者が向かいました。神域内では、当日、天皇皇后両陛下が式年遷宮後初の御親拝に行幸啓されるため各所には警察官が警備をしていました。早朝にも関わらず御垣内参拝を行う人が数組おり、遷宮翌年御礼の「おかげ年」で神宮に対する信仰の篤さを感じました。

朝食を済ませると伊勢の地をあとにして名古屋市科学館へと向かいました。ここはドーム内径世界最大の三十五mプラネタリウムドームが有り、その大きさに驚き天体ショーに見入りました。その後は六階から二階までの各階にて生命ラボ、放電ラボ、水のひろばなど体験をしながら科学に触れる時間を過ごし全ての日程を終了しました。

今回の子供参宮団は委員任期が替わってから初めての事でありましたが、経験有る委員や付添の神職各位により事故も無く天気にも恵まれ予定通り無事に行うことが出来た事に感謝申し上げます。

次回の開催は二十回目という一つの節目を迎える参宮団となりますので、記念となるより充実した旅行を実施すべく今回の反省をふまえ委員会として計画してまいります。

今後も青少年対策推進委員会の事業活動にご協力を賜りたくお願い致します。

神宮特別研修会

長野県神社庁では三月十八日～十九日の二日間に亘り第六十二回神宮式年遷宮を記念し神職の特別研修会を実施した。

本研修会の趣旨は祭祀の厳修と神社の護持を最も厳格に守り伝えている神宮をより詳しく学び神明奉仕の基礎とする事はもとより、通常の参拝団では遙拝となる事が多い別宮・摂末社・所管社を巡拝して認識を深め今後、氏子崇敬者の案内役として参宮活動に寄与出来る人材を養成すべく計画された。

今回は第一回として長野県神社庁研修所の宮坂信廣講師（神宮概説担当）により行われ、行程一日目としてバス内でのビデオ学習及び解説、神宮徴古館・農業館に於ける重要展示の観覧及び解説に続き外宮研修として、正宮正式参拝・旧正殿拝観・せんぐう館観覧・域内別宮所管社及び月読四宮巡拝、御塩浜見学・御塩殿神社参拝等の後、二見に宿泊し夕食の間質疑応答及び意見交換を行った。

翌二日目は内宮研修として旧正殿正式参拝・域内別宮及び所管社巡拝並びに各社解説研修を行った後、御神楽奉納、神宮司庁・神馬休養所等を見学した。

参加者より「神宮に参拝する機会は多いが、まだまだ知らない事が多い」といった

意見が多くあり、神職自らが自信を持って神宮について総代・氏子崇敬者に語り、共に参宮を行う事が次期遷宮に向けての大きな架け橋となる事を深く感じる研修となった。

創立六十五周年を迎えて

長野県神道青年会会長　上條　雅彦

平成二十五年度は長野県神道青年会が創立されてより六十五年を迎えるという佳年でありました。現在我々は百二十余名で組織され、実際参加できる会員はその数割という少ない人数ではありますが、六十五周年を迎えるにあたり先輩方の積み上げてこられた歴史を再認識すると共に、今一度会員の団結を図るべく何かしら行事を行いたいという意見が多く寄せられ、二月二十日には前年度非常に好評であった桃井前会長に再度ご講演頂き、日を同じくして有賀祭式講師、宮澤助教ご指導の下祭式研修会を開催致しました。また、記念事業の一環として国旗掲揚啓発活動を旨とし、アパート等広く場所の取れない所でも掲揚できる小型マグネット式の国旗と掲揚台を新たな頒布品として採り入れ、それに伴い祝祭日を記したチラシを頒布することと致しました。そして三月十三日には創立六十五周年記念式典祝賀会を開催する運びとなり、長野県神社庁神殿の大前にて事の由をご報告させて頂きました。式典祝賀会には県内関係者各位にお声がけさせて頂いたところ、年度末の大変お忙しい中、副庁長 宇治橋淳様をはじめ別表特別神社宮司、歴代会長、当会顧問諸先輩方二十名近い皆様が足をお運びくださり、盛大に開催することができました。先輩方のご活躍されていた当時に比べ消極的と受け取られがちな現在ですが、このように大勢の皆様に祝福される中で、我々青年神職に期待されるものがまだまだある事を強く感じました。先ほど述べたとおり実質参加者が少数の現状でございます。大言申す事はできませんが、我々は何ができるのか、何を成すべきなのかを見定めながら、斯界興隆の一端を担うべく研鑽に励んでまいりたいと思います。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げつつ、ご報告させて頂きます。

小型マグネット式国旗・掲揚台

《新規頒布品》
お問い合せは、神青会活動委員会へ

支部だより

神社総代基礎研修会を終えて

南安曇支部　調査研修委員長　須澤　清昭

平成二十六年度南安曇支部事業初となる氏子総代基礎研修会が、去る六月十六日穂高神社参集殿において行われました。氏子総代が、この会に参加し易いようにと平日の午後六時から九時までの三時間で行われ、神職総代一二〇名が参加しました。先ず開会の式典があり、休憩を挟んだ二部構成で行われました。第一部は県神社庁副庁長宇治橋淳先生より「神社組織関連団体、宗教法人としての神社、氏子総代の心得、敬神生活の網領について」の講義がなされ、中でも神社参拝の作法は喜怒哀楽の感情表現と正に重なったものであり、お願いと感謝、畏れと驚きを体で表していると説かれました。いまひとつは今の自分は遠い祖先があるからこそ存在する、その祖先が遺した財産を、何百年後の日本の歴史として作り上げるのも今生きている者の務めであり、短い総代任期の間ではあるが、伝統文化を次世代に確実に申し送る責任と義務を認識されるよう話された事が心に強く響きました。

休憩の四十五分間に食事をとることとし、この間、食前食後感謝の言葉と作法説明を行い、百名余の参加者一同がそろって行う事ができました。

第二部は支部調査研修委員が講師となり、参考冊子「神社参拝のかたち」に沿って、祭りの流れ、作法、手水、玉串拝礼等が説明され、続いて神宮大麻について、由来と家庭祭祀の大切さが話されました。最後に支部事業について一年間の事業内容とともに、研修旅行への参加を依頼し修了することができました。

このたびの研修会は、参加した氏子総代全員が講義中に弛緩退屈することなく、咳払いひとつせず集中して受講され、必要性に応じた高い教養と意欲の中で意義ある事業となり、例年の事業とするべく感じた次第でありました。

神社のいろは②

手水

本号では手水についてご紹介します。

古事記によれば、国生みを終えた伊邪那岐命、伊邪那美命二柱の神は、火の神（迦具土神）を生みます。これにより伊邪那美命は体を焼かれ命を落としてしまいました。

伊邪那岐命は嘆き、亡くなった妻に会う為に黄泉の国へ向かいますが、そこで醜い姿になってしまった伊邪那美命の怒りをかい、追っ手を逃れて帰ってきました。

伊邪那岐命は黄泉の国に行ったことにより穢れてしまった身を清める為に、筑紫の日向の橘の小戸の阿波岐原で禊をします。この際、目や鼻を洗った時に生まれた神々が天照大御神、月読命、須佐之男命の三貴神です。

穢れを忌み、祓い清めることや、清浄を好む我が国の伝統文化は神話に基づいています。

私達の祖先は、神さまがそうであるように人間も清浄でなければならないと考え、神前に向かう時は必ず初めに清めを行い、常に心身ともに清浄であることが古より守り伝えられています。

この為神事に臨むに当たって、その奉仕員や参列諸員は先ず手水を行うのが原則です。

手水とは清水で手と口を清める儀式を言い、禊を簡略化したものです。

次に一般的な神事における「手水の儀」を紹介します。

◆手水を受ける作法

まず手水所役より、柄杓ですくわれた水を三度に分けて受けます。

①水を両手で受け、初めに手を清める。

②水を両手で受け、口に含み清める。

③水を両手で受け、再度手を清める。

④拭い紙を受け取り、口の周囲と手に付いた水を拭う。

以上を済ませてから所定の位置に立つ（列立）、または自席に座ります（著座）。

また手水には神社などへ参拝する前に行うものがあります。

神社の入口である鳥居の手前や鳥居をくぐってすぐの参道付近には手水舎があります。その作法は次のとおりです。

◆手水舎での作法

手水舎で手水をする場合は自ら柄杓を執ります。柄杓一杯の水で五回の清めを行いますので多めに汲む必要があります。

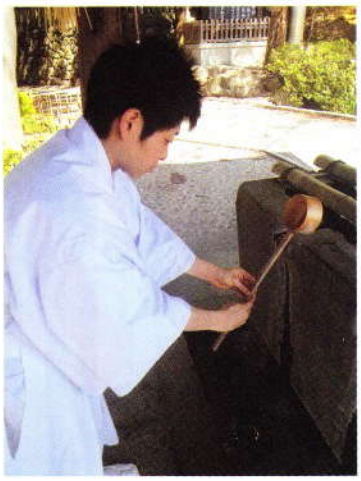
①右手で柄杓を持ち左手を清める。

②柄杓を左手に持ち替え右手を清める。

③柄杓を右手に持ち替え左手に水を汲んで口に含み清める。

④再度左手を清める。

⑤柄杓を斜めに傾け、柄（手にした部分）を清める。



神事に臨む際、また神社に参拝して祈りを捧げる前に、まず心身を清めてから神前に向かうよう心掛けましょう。

教化部祭祀委員会　北爪　聖

神道を考える　その②　氏神様を考える

敬神生活のススメ

教化講師　山崎　洋文

氏神様という言葉は、私たちに暖かいもの・懐かしいものを感じさせます。それは氏神様を自分の祖先の集合体と考える信仰が我々の胸の内深くにあるからだと思います。柳田國男は「これを縦の連帯、すなわち目に見えぬ過去の力の援護を信じたから」といっています。神社関係の人々は、いずれかの神社の氏子でない日本人は一人もいないと思っています。言い換えると、日本人は全ての人がどこかの神社の氏子であるという信仰であり、お祭りの祝詞もそのように奏上しています。人は氏神様の導きでこの世に生まれ、亡くなる時も氏神様の導きで相応しいところに行くという信仰でもあります。

お宮参りをもって氏子入りをするという古い習慣があります。

私の近くの具体例で考えてみます。

私の住む最小単位の常会（昔はこれを、ムラと呼びました。例えばムラウチに不幸があれば必ず葬儀に行きます。）この八木耕地はおよそ四つの氏で構成されています。そのひとつの氏である前山姓が祀っている祝殿があり、毎年四月に当番の持ち回りでお祭りをしています。祀られている場所の地番が若宮という地番で、祝殿も若宮様と呼ばれています。慶応四年と記された麻製の小旗をいまでも使用しているので、江戸期にはすでにお祭りをしていたことがわかります。この祝殿を構成する十七戸のなかの十一戸は前山姓ですが、なかにはそうでない家、山崎家、中村家のような家も参加しています。そして、肝心なのはそれらの人々も若宮様が氏神様だと信じていることで、若い夫婦に子供が生まれたので、若宮様に詣でたと聞きました。つまり、若宮様が氏神様だと思っているのです。それはその家代々の伝えでもあったのです。

若宮様の祭り

若宮様は、ひとつの例に過ぎませんが、各集落に氏の数だけ祝殿があり、神職が奉仕するしないにかかわらず同姓のお祭りがおこなわれています。つまりこの同姓の祝殿が本来の意味の氏神で、祖先を同じくする家々が農耕の始まる前にユイの共同作業に支障が無いように互いに親睦を深めるのが昔の氏神様の御祭であったのでしょう。

明治三十九年十二月原敬内務大臣が一村一社にまとめるよう「合祀令」をだしました。古老からの聞き取りによると、「お宮の数があまりにも多く、お祭りばかりやっていて仕事をしないので、ムラにひとつの神社にまとめるよう明治政府が命令したんだ」といわれています。国家統制のできる神社にまとめてしまおうという政府の意図があったのでしょう。

例であげた若宮という地番の土地は大字（おおあざ）の神々を全てまとめて祀ってある白山神社の飛び地になっていることから、合祀令の実績がここにもみることができます。合祀されたのですから、白山神社の祭りが氏神様の祭りになるのですが、神社の祭りを行い、それとは別に同姓の祭りをおこなっていることは、とても興味深い現象だと思います。

明治四十五年に作られた「村祭り」という文部省唱歌をみてみましょう。合祀のあとの理想が歌われています。

村祭り　　**文部省唱歌**

村の鎮守の神様の
今日はめでたいお祭り日
どんどんひゃらら　どんひゃらら

どんどんひゃらら
どんひゃらら
朝から聞こえる笛太鼓
年も豊年万作で
村は総出の大祭り
どんどん・・・・・
夜まで賑わう宮の森
治まる御世に神様の
めぐみ仰ぐや村祭り
どんどん・・・・
聞いても心が勇み立つ

筑北東条ムラマツリ

この歌詞をみてわかるように、氏神様はまとめられ鎮守の神様となり、村を護ってくれる神様となっています。これを氏神の合同と柳田翁はいっています。年は米のことを指し、豊作を祝い村全員で賑やかに祝っている様子がよく現れています。三連になると、平和な世の中に感謝する気持ちが氏神さまのお陰であり、生きる力の源だとも解釈できます。

一方、産土様という言葉もあります。産土とは出身地というような意味であると言いますが、私が理解している意味合いは、人が生まれてから死ぬまで守ってくれる神様だということで、葬儀の前段に帰幽報告の祭詞のなかに亡くなった人を導いてくれる神様として産土神が登場します。したがって産土様と氏神様とは一緒だということになります。

更に、もっと広い範囲になると、郷社と呼ばれた神社のようにその地方をまとめる大きな神社があります。そのくらいの神社になると神職がいつでも対応してくれ、お宮参り、七五三等、個人の祈願を常時受け付けてくれます。このお宮も氏神社と呼ぶようになりますので、二重・三重の氏子ができてきます。本来、日本人は、それでもお構いなしに多くの神々を拝みました。最終的には、本宗と仰ぐ伊勢の神宮が日本人全てを守ってくれる氏神様という考えに至ります。「総氏神」という表現は適切かどうかの問題はありますが、我々を守ってくれるのが氏神様だとしたら、日本全体を守ってくれ、日本人が隈なく崇敬する神社であり、日本のどの家でもお祀りされる神様として、神宮があげられるのは間違ってはおりません。

信仰は心の動きであり、見ることはできませんが、信仰に基づく敬神という、神を敬う行動は外の形ですので他人がみることができます。どんなことが、敬神なのでしょう。

それは、お祭りをすることです。村の社の祭りはもとより、家庭でもお祀りをすることです。日本伝統の諸行事を行うこともお祀りをすることになります。そのためには、祀りの中心・家庭の中心としてのお札を受けてください。真ん中に天照皇太神宮（神宮大麻）を納めその向かって右に氏神様のお札。左にじぶんのよくお参りする神社のお札を収めます。敬神生活は、縦の連帯を無意識に感じることのできる日本人の習慣なのです。

鎌倉時代、執権北条泰時が御家人（武士）のために策定した貞永式目の第一条に

神は人の敬によりて威を増し
人は神の徳によりて運を添ふ

とあります。神職に示したのではなく、武士の守るべきものとして、敬神の心がけを揚げてあるのはさすがです。二条以降にお祭りを盛んにしなさいという条目もあります。

神社を守り、祭りを盛大にすることはすなわち私たちがおおきな神のめぐみを蒙ることにほかなりません。

敬虔な祈りを捧げるいわゆる宗教活動よりも、敬神行動が身について、日々お祭りをしていくことが、日本人の信仰なのです。

心だに誠の道にかないなば
祈らずとても神やまもらん

この菅原道真の和歌の解釈はさまざまですが、心のなかに敬神のこころがけが決まっていれば、くどくどと祈らなくても神様はいつも守ってくれるのだ。と捉えます。

神宮大麻を受けましょう、受けてない方には勧めましょう。

参考文献　氏神と氏子　柳田國男全集⑭

沖縄「信濃の塔」慰霊戦跡巡拝の旅

上伊那支部長　白鳥　俊明

平成二十五年度「沖縄『信濃の塔』慰霊戦跡巡拝の旅」は、上伊那支部が慰霊祭の御奉仕の担当をいたしました。前年より、長野県遺族会と打ち合わせを行い、一月二十二日には長野市で行われた結団式に出席し、二月五日より三泊四日にて、沖縄へ出発致しました。長野市を電車で出発した慰霊巡拝団一行約四十名と、南信出発の我々は名古屋駅で合流し、セントレア空港より沖縄に向け飛び立ちました。私にとって初めての沖縄でしたが、残念ながら天気予報は全行程が雨模様、沖縄上空の三重の雲をかき分け那覇空港に降り、空港からはバスで夕食会場へ直行し、夕食後は宿泊ホテルの部屋で、前もって神社庁から送ってある装束、支部から送った土産品や紙垂類の荷を解いて玉串等を調製し、慰霊祭の打ち合わせをしながら夜は更けていきました。

二日目、本隊より一足早くタクシーで移動して、予報通りの雨がフロントガラスを濡らしましたが、摩文仁の丘につく頃には雨も上がり、丘の上の方に位置する「信濃の塔」へ移動すると、今にも落ちてきそうな雨に、準備万端テントが張られていました。神饌を並べ注連縄を張り、十時からの追悼式に続き慰霊祭を斎行しました。心配されました天候ではありましたが、「信濃の塔」に着いてからは不思議と雨は降らず、我々四名に、個人手配で駆けつけてくれた二名を併せ、雅楽演奏を添え六名で御奉仕致しました。事前に見てきたビデオでは、風が強く諸事大変そうでしたが、風も無く穏やかな中、無事斎行することが出来ました。

沖縄「信濃の塔」慰霊祭

片付けを済ませ、管理事務所で着替えをし本隊に合流して、後の行程を共に巡り、「平和の礎（いしじ）」「ひめゆりの塔」に続いて、長野県佐久市出身の小池中佐が最期を遂げた「糸洲（いとす）の壕」を見学しました。「ひめゆりの塔」に同じく軍より解散命令が下るも機転を利かせて解散の時を読み、生きて親元へ…と当時とすれば異端ともされかねない言葉と行動で学徒隊を導いた小池中佐に想いを馳せ、学徒隊（積徳女学校）に縁のある大典寺で生き残りの方々から当時のお話を伺い、意義深い一日を過ごさせていただきました。

三日目は、予報を覆し素晴らしい天候に恵まれ、「沖縄県護國神社」で正式参拝。その後「嘉手納（かでな）基地」横の道の駅から空港を眺め、「万座毛（まんざもう）」「佐喜眞美術館」を見学、屋上からは「普天間基地」でホバーリングするオスプレイに遭遇。「海軍司令部壕」を見学した後、本隊が買い物をしている間に我々はタクシーで「波上宮（なみのうえぐう）」を参拝しました。

最終日は「首里城」から那覇空港へ、帰り道は観測史上稀に見る大雪で高速道路が通行止めになり、名古屋から下道を七時間…というオマケ付きではありましたが、大変思い出深い有意義な旅となりました。

来年は、「信濃の塔」建立から五十年の節目の年にあたり、大々的に慰霊祭を斎行して欲しい…との遺族会長様のお話がありましたことを申し添え、慰霊巡拝旅行の御報告とさせていただきます。

北マリアナ諸島戦没者慰霊顕彰事業に参加して

玉依比賣命神社　宮司　瀧澤　基

平成二十六年五月十八日、「大東亜戦争戦跡『北マリアナ諸島戦没者慰霊顕彰事業』」に参加するため、南安曇支部の宮澤民雄氏と成田へ向かい、総勢二十名の慰霊団に合流、翌五月十九日、成田空港よりサイパンに向けて飛び立った。

慰霊祭を行うテニアン島は、サイパン島の南西約八キロ、サイパン空港からセスナ機で約十分の場所に位置する。長野県に縁の深い「松本歩兵第五十聯隊」の終焉の地であり、広島・長崎に原子爆弾を落とした、B29「エノラ・ゲイ」「ボックス・カー」に原爆を搭載した島であることは知っていたが、私自身初めてテニアン島に降り立った。

テニアン島スーサイドクリフ「慰霊施設」

年間を通して平均気温がほとんど変わらない北マリアナ地方、乾季と雨季の二季しか無い中で、五月は雨季ということもあり天気予報を注視していたが、一日のどこかで必ずスコールに見舞われる当地方にあっては、降水確率は自ずと高くなり参考にはならない。まさしく、滞在期間中の昼間は雨に降られることは無かった。慰霊祭当日は、朝方まで雨が降っていたようであったが、雨は夜明けと共に上がり、ダイナスティホテルの窓からは虹を拝むことも出来た。台湾資本ということで中国人宿泊客が多く、日本人客は私たちだけだったように思えたが、ホテルのロビーに集合した際、白衣白袴の奉仕員たちは彼らにはどのように映ったであろうか。ホテルからはチャーターしてあった大型バスで移動、約十分ほどで長野県神道青年会が建立した慰霊施設のあるスーサイドクリフに到着した。参加者の中には、当慰霊事業に参加したことのあるメンバーが何人も居り、前日の打ち合わせにより当日の行動から準備にかけて細部にまで指示が行き渡っているようで、到着するや否や、島に預けてある祭壇や祭具の荷を解き、祭員も他のメンバーも手際良く動いていた。祭壇を組み神饌を供え、風に飛ばされないよう固定し、斎場が整い次第「慰霊祭」を斎行。斎主は駒ヶ根市の大宮五十鈴神社白鳥宮司が務め、祭員は、愛知県から参加された白山宮西田権禰宜・木曽王滝の御嶽神社瀬戸権禰宜・諏訪大社葛巻権禰宜が、伶人として上伊那郡辰野町の矢彦神社立澤宮司・立澤禰宜が奉仕、慰霊祭の中では、戦時下は水に大変苦労したということで参加者全員がそれぞれに家庭から持ち寄った水を献水鉢にお供えし、餅や煙草に菓子などのほか郷土の名産品もお供えした。

北マリアナ諸島戦歿者「慰霊祭」

続いて祭詞奏上、我々は後背部より、祭員は真正面より、肌を突き刺すような陽射しを全身に受け、汗は額から鼻へと伝い流れるように地面に落ちた。聞けばこの日ほどの暑さは初年度以来のようだが、スコールで雨宿りを余儀なくされる年が多い中で、一度も雨宿りをしなかった年も珍し

かったそうである。

当施設の鳥居脇に、「この大空と大海原に馳せる想い」（下記）を彫った石碑があり、施設を建立した想いが綴られていて、慰霊祭の中では祭詞奏上に次いで「碑文朗読」が行われる。「碑文朗読」を担当したのは、諏訪大社神田巫女、何度も何度も練習してきたであろう朗読も、最後まで声は涙に咽び言葉にならず、参列者一同も碑文を噛みしめ共に涙した慰霊祭であった。

慰霊祭の片付けをして、テニアン島の戦跡巡り。帰りのセスナ機の時間があり、慰霊祭後から昼食までの限られた時間、もともと百平方kmほどの小さな島なので駆け足で巡った。日本軍の通信局跡・日の出神社・

慰霊祭「碑文朗読」

アメリカ記念碑を車窓から望み、そのままブロードウェイと呼ばれるまっすぐな道を走って、エーブル滑走路で原爆を搭載したピットを見学。日本軍航空艦隊司令部跡を車窓より眺め、米軍の最初の上陸地「チュルビーチ」へ。とても穏やかな海岸で、激戦地であったとは思えないほどに長閑な景色が広がっていたが、脇にある弾痕激しいトーチカが、当時激戦であったことを物語っていた。最後はタガ遺跡、紀元前千五百年に作られたといわれるマリアナ諸島先住民族古代チャモロ人の遺跡、遺跡内に善光寺が建てた慰霊碑や松本歩兵第五十聯隊の慰霊碑があり、煙草を供え手を合わせた。

慰霊団「集合写真」

碑文

この大空と大海原に馳せる想い
～日本からこの地を訪れたすべての人々へ～

あなたの純真な心に純粋に美しく映えるこの見渡す限りの大空と大海原が、ひととき悲しみに曇り涙に霞んだ真実を忘れること無く後世に伝えて欲しいと願います…

大東亜戦争当時、日本を遠く離れこの島を含め南洋の多くの島々で戦歿された軍人兵士『英霊』や、運命を共にされた当時の在留邦人の多くは、国家防衛と国民平安の為に尽くされ、祖国の永続と民族の永遠とをひたすらに願い、尊い命を捧げられました

激戦の果てに行き場を失い日本民族の誇りに懸けて、この断崖から紺碧の海に我が子と共に身を投げることなど、我々には想像もし難い事実であります

平和な次代を残す為に日本人としての生き方を示し遺された先人達に感謝の心と敬慕の念を以ってお報いする為、慰霊の誠を捧げていただければと存じます

散華された『英霊』と戦没者の御霊は、祖国に帰り靖國神社にお祀りされております

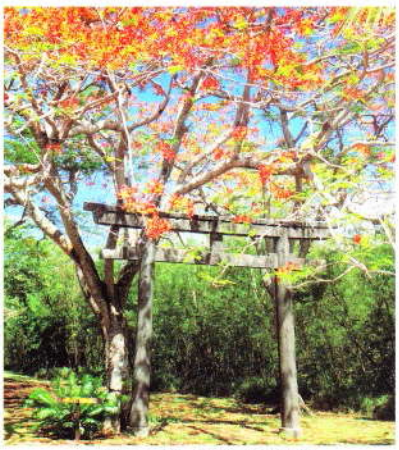
そして幸せに元気よく今の世を生きている『あなた』を見守っていて下さいます

帰国後は、この島のこの場所であなたが感じた見渡す限りの大空と大海原の美しさを、靖國に鎮まる御霊にあなたらしく伝えていただければと願います

エーブル滑走路「原爆搭載ピット」

テニアン島の戦跡巡りでガイドを務めていただいたのは、テニアン島在留邦人の岩下氏。岩下氏には、施設及び祭壇や祭具を管理いただいているそうであるが、岩下氏が経営する「アイランド・ガーデン・レストラン」で、テニアン牛のカレーなど現地料理を食した。岩下氏は、テニアン市長とも懇意にされており、テニアン市長との食事会を行った年もあったそうだが、今年、食事会が出来なかったことは残念であった。

この季節は、南洋桜といわれる花が満開で島内の各所には南洋桜が咲き乱れ、綺麗な景色に感激したが、今と寸分変わらぬ同じ明媚な景色に包まれていたであろう戦時下の当地にあって、国家防衛の最重要地域とされ決死の戦いの末に命を落とされた軍人兵士は元より、当時アジア最大規模の南満州鉄道に次ぐ南洋興発（製糖会社）があったことから多くの日本人が生活しており、日本を遠く離れた南洋の島々で激戦の果てに命を落とされた史実を鑑む時、只管に祖国の平和を祈りながら亡くなった戦歿者に対し、慰霊の誠を捧げてきた長野県神道青年会また常若肇國会に敬意を表する。


テニアン島「日の出神社」

サイパン島での戦跡巡りは、慰霊巡拝ツアーで島の各所を回った。朝九時から夕方五時まで島内の戦跡を巡るツアーは、とても過酷であったが充実した一日となった。島最北端の岬で「天皇陛下万歳」と祖国に想いを馳せながら散っていったことから名付けられた「バンザイ岬」を皮切りに、ラストコマンドポスト「日本軍最後司令部跡地」「中部太平洋戦歿者の碑」、バンザイ岬の上に聳え立つ「スーサイドクリフ」、野戦病院としても使われていた「極楽谷」、南雲中将、斉藤中将最後の場所とも言われている「地獄谷」、日本軍の抵抗が凄まじく米軍に「死の谷」と言わしめ、司令部や野戦病院が置かれ激戦化した「タポチョ山」、また「ドンニーの野戦病院洞窟跡」「聖母マリアの祠」トーチカや魚雷、戦車などがある「日本軍爆弾格納庫跡」に「日本軍発電所跡」、「日本人墓地」「日本刑務所跡」など普段の旅では行くことの出来ない場所へも行き、戦時下に想いを馳せた。

慰霊巡拝ツアー「南洋桜の下で」

今日の日本の繁栄が、戦争による尊い命の犠牲の上で成り立っていることは言うまでもない。北マリアナ諸島から、戦歿された全ての御霊に慰霊の誠を捧げることで、一神職である前に一日本人として、先人の護国の精神と我々に残してくれたものを次世代へ継承していく為にも、ひたすらに祖国の平和を祈りながら亡くなった戦歿者に対し、慰霊の誠を捧げて参りたいと考える。

総代だより　長野支部

『信ずる』という重さと大きさについて

木留神社　氏子総代会長　岡宮　喜三男

私の町の産土神は木留（きとめ）神社といい祭神は健御名方命であります。創立年月日は定かではありませんが、社伝によると正治（一二〇〇）以前の勧請といわれているから源頼朝が鎌倉に幕府を開いたころと思います。この神社は諏訪大社系で犀川の沿岸に在って、その昔流水で善光寺造営の木材をこの付近で留止したことにより「木留大明神」と称するようになりました。祭神は崇敬する氏子中をこよなく愛しそして区民の敬神の的であります。

◆御神徳を頂き解決への道（その一）

三年前（平成二十三年）の五月二日、私は不注意で自転車を乗り損ね座れなくなり、大変不便をきたしていました。先ず神前で正座をして玉串拝礼ができないこと――正座ができないことは、日本人として如何に理想や立派なことを述べてもそれは人道に反するようなもので大変恥ずかしいことに気づきました。私はこれを克服するために針医者を訪ねたり整形外科へも通いました。しかし一向に元の脚にもどる気配はありませんでした。ある日、神社の掃除をしていた時、私のフビンな格好を見て山本税子さんが「…関整骨院へ行って診てもらったらどうですか?」と…。ワラにもすがる思いで八月の盆過ぎに関先生を訪ねました。すると週六日十五回程通ったところ座れるではありませんか！

これ将に神通力というものでしょうか――氏子の役員たちは私のために「胡床」まで用意してくれた程の気の遣いようでしたから〝座れた〟喜びは格別で、この御神徳は終生忘れることのできない神への感謝と感激です。以来、斎藤宮司から頂く玉串は以前のように、正式に捧げることができることはこの上ない喜びで〝信ずることは神に通ずる〟ことを体験した事実であり、広く関係する氏子中の皆さんにこのことが浸透することを願って止みません。

◆御神徳を頂き解決への道（その二）

平成二十五年十二月十一日、私たちは伊勢神宮の新穀感謝祭に参加しました。私は以前に観光で度々訪れていて伊勢は知ってはいます。しかしこれほど御神徳を頂いたことはありません。

私は最近とくに足腰の痛みを苦にするようになり、お伊勢参りは如何か…と、自分でも疑念を持つようになっていましたが、情報や色々な資料を見るたびに、加えて私は一級建築士であり氏子総代会長でもある関係で〝是非〟参拝しなければ…との考えから参加いたしました。伊勢は長野からは随分と遠方にありますので、バスは非常に疲れ足腰の痛みは一層ひどくなるばかりでした。最初は外宮の参拝でした。石の太鼓橋前で整列をし、第一の鳥居に向かうころは、腰に何か重いものを感じました。ところが鳥居を潜って間もなく、あの重苦しい腰が〝ピタッ〟と止まるではありませんか。これは本人でなければ分かるものではないと思います。お陰さまで内宮も難なく参拝することができました。目に見えない神、そして神の力は人間の智恵で及ぶものではありません。

神道には過去の過ちや苦しみを抱えながら生きることは善くないことだとする考えがあるようです。私たちは、これまでの善かったことや楽しかった思い起こしつつ神を信じ、御神徳を頂きながら明日を生きることが善いのではないかと思う昨今であります。（六元）

御造営Photo NEWS

○大原社（上水内郡信濃町平岡鎮座）

宮司　神原博文

大鳥居再建

再建費　壱百四拾萬円余

平成二十五年五月七日強風により突然木造両部鳥居が倒壊しました。直ちに建設委員会を設置し、再建資金等の検討に入り、地区氏子の皆様の御厚志と保険金のとりくずしに依って、今回は石造両部鳥居を同年七月十三日に竣工することが出来ました。関係各位の御尽力に深く感謝する次第です。

○矢本八幡宮（長野市戸隠祖山鎮座）

宮司　宮川和工

鳥居新築

造営費　参百萬円

昭和二十八年五月四日に建てられた鳥居は六十年の歳月を経て昨年七月一日に倒壊しました。これを受けて建設委員会を組織し、氏子の皆様の御協力のもと、去る四月十四日建立、二十六日には奉告祭が斎行されました。私が社寺建築設計の仕事をしている為、設計積算、材木の買付、加工、基礎打設、建方まで携わらせて頂き、次世代への思いを込めた鳥居が竣工致しました。

木造（カナダ檜）八幡鳥居、柱間二間、柱径一尺二寸、高さ十四尺五寸。

○八幡宮（安曇野市豊科南穂高踏入鎮座）

宮司　等々力満

拝殿・幣殿・社務所　新築

造営費　参阡萬円

大正七年に建てられた拝殿、幣殿・社務所は基礎から屋根瓦に至るまで傷みが激しく、氏子が以前から新築するために備えをして八百萬円となりましたので、それを基金として氏子中に諮り承認を得て、更に、寄付金を募りました。平成二十五年七月に地鎮祭を斎行し、地元の業者が施工に当り十一月二十日竣工式が斎行されました。氏子中の御理解と御協力に感謝申し上げます。

○生島足島神社（上田市下之郷中池西鎮座）

宮司　武藤美登

斎館新築

造営費　壱億七阡伍百萬円

木造二階建の報恩殿が、築五十年余を経て老朽化甚だしく、地震等による倒壊の懸念あり、数年前から改築論がありました。因って、氏子総会の議決を得て建設委員会を組織、場所を社務所隣接地と定め、名称を斎館とする鉄骨造二階建延床面積六百六十平米の建物新築が決定されました。昨年七月十六日に地鎮祭を斎行、工事は順調に進み本年一月三十日竣工し、四月十九日春季祭に併せ竣工奉告祭が盛大裡に斎行され、大勢の氏子崇敬者と共に完成を祝いました。

斎館新築に当り御尽力御協力戴きました方々に、深く感謝し御礼を申し上げます。

新しく任命された神職を紹介します

新任神職の横顔

鷹野　巽（たかの　たつみ）　二十四歳
諏訪神社　宮司
南佐久支部

この度、神職として任命され、改めて自分は神職としての道を歩き始めたのだと感じています。私は教員としても勤務しているので兼務ということになります。なのでまだ神職になったという実感がわいてきません。しかし、少しずつ二足のわらじを履いて歩いていけるよう、精進して参りたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

下平　博（しもだいら　ひろむ）　四十九歳
葦原神社　禰宜
飯伊支部

この度、大鹿村に御鎮座致します葦原神社の禰宜を拝命致しました。

幼い頃より、他界した父の奉職する姿を見ながら育って来ました。父が他界した後に、神職を継ぐ事で地域の皆様に貢献出来ると考えて神職の世界に足を踏み入れましたが、責任の重さ、厳しさを感じています。

先輩神職の方々のご指導ご鞭撻を頂だきながら、神明奉仕に励み一日も早く地域の皆様や神社界の役に立つ様になりたいと考えてます。どうぞ宜しくお願い致します。

池田和行（いけだかずゆき）　三十二歳
熊野神社　禰宜
木曽支部

神職とは私にとって、幼少の頃祖父が行っていた時のイメージが強く残っています。祖父が他界し縁あって熊野神社の禰宜として任命されました。先ず驚いたのは熊野神社の歴史の長さでした。三百年もの歴史の厚みは感銘をうけると共にその責任を感じました。又長野木曽の自然とそこに共に息づく神社の存在は日本の源泉の様に感じられ日本人として神社に関わることを嬉しく思います。御指導、よろしくお願い致します。

星　貴史（ほし　たかし）　三十六歳
鹽竈神社　権禰宜
松塩筑支部

私はこれまで関東で生活しておりましたが、今般大変有り難い御縁を頂き、鹽竈神社権禰宜を拝命致しました。この美しき信州の地で神職としての一歩を踏み出せる事を大変嬉しく思うと同時に、これから背負って行く責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いでおります。神職としては勿論、人間的にもまだまだ未熟ではありますが、誠心誠意神明奉仕に励んで参りますので、御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

近藤保三（こんどうやすぞう）　六十四歳
大宮神社　宮司
上水内支部

この度、平成二十六年一月一日付けで、飯綱町の大宮神社宮司を拝命致しました。

公務員であった私が、縁あって社家に婿入りし、遅まきながら定年後に國學院大學の講習会を受講して神職の資格を取得しました。正直六十を過ぎての資格取得は心身ともに大変きついものでしたが、私にとって神道という新しい世界はとても新鮮で、もっと学ばなければと思いました。

神職と税理士の兼業ではありますが、初心を忘れず励みたいと思いますので、皆様方のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

丸山　智（まるやま　さとる）　二十二歳
西宮神社　禰宜
長野支部

私は、社家に生まれたこともあり、常に神社との関わりがありました。幼い頃から、父の神職としての姿を見てきたこともあり、神職へ憧れを持ったため神職を目指しました。現在は、会社員と兼業しておりますが、まだまだ多くの点で未熟者であるため、日々精進してゆきたいです。

今後、皆様方のお役に立てるよう努力して参りたいと存じますので、御指導御鞭撻の程、宜しくお願い致します。

辞令

平成25年12月～

神社名	本兼 職務	氏名	月日	支部名
昇級・神職身分一級				
戸隠神社	宮司	藤井　茂信	三・一	上水内
昇級・神職身分二級上				
白山神社	宮司	山﨑　洋文	三・十	松塩筑
大宮熱田神社	宮司	山田　充春	三・十	南安曇
王日神社	宮司	傳田　幹彦	三・十	下高井
玉依比賣命神社	宮司	瀧澤　基	三・十	長　野
任命				
諏訪社	兼　宮司	佐々木宗昭	二十五・十二・一	南佐久
諏訪社	〃	〃	〃	〃
諏訪社	〃	〃	〃	〃
諏訪社	〃	〃	〃	〃
諏訪社	〃	〃	〃	〃
諏訪社	〃	〃	〃	〃
諏訪社	〃	〃	〃	〃
諏訪社	〃	〃	〃	〃
八幡社	〃	〃	〃	〃
十二神社	〃	〃	〃	〃
海神社	〃	〃	〃	〃
神明社	〃	〃	〃	〃
稲荷社	〃	〃	〃	〃
大宮諏訪社	〃	〃	〃	〃
二柱神社	兼　禰宜	林　剛邦	二十五・十二・十五	松塩筑
高日出社	〃	〃	〃	〃
山神社津島社	〃	〃	〃	〃
三社	〃	〃	〃	〃
諏訪社稲荷社合殿	〃	〃	〃	〃
伊和社	〃	〃	〃	〃
大宮社	〃	〃	〃	〃
高岡神社	兼　宮司	近藤　保三	一・一	上水内
小玉神社	〃	〃	〃	〃
平出神社	兼　宮司	近藤　保三	一・一	上水内
八幡社	〃	〃	〃	〃
八幡宮	兼　宮司	小平　和彦	四・一	南安曇
諏訪神社	兼　宮司	若槻　徹也	四・一	長　野
和泉神社	兼　宮司	遠藤　久芳	六・一	松塩筑
大己神社	〃	〃	〃	〃
金山神社	〃	〃	〃	〃
日置神社	〃	〃	〃	〃
神明宮	〃	〃	〃	〃
神明宮	〃	〃	〃	〃
大日向神社	〃	〃	〃	〃
諏訪神社	〃	〃	〃	〃
八幡宮	〃	〃	〃	〃
上西條神社	兼　宮司	宇治橋牧子	七・一	松塩筑
中西條神社	〃	〃	〃	〃
荻原神社	兼　宮司	遠藤　綾子	七・一	松塩筑
高根神社	〃	〃	〃	〃
本村神明社諏訪社合殿	〃	〃	〃	〃
諏訪社神明社合殿	〃	〃	〃	〃
木島神社	兼　宮司	大澤　泰紀	七・一	飯　水
伊勢社	〃	〃	〃	〃
鳥出神社	〃	〃	〃	〃
諏訪社	〃	〃	〃	〃
伊勢社	〃	〃	〃	〃
吉村神社	〃	〃	〃	〃
飯綱社	〃	〃	〃	〃
諏訪社	〃	〃	〃	〃
沓津神社	〃	〃	〃	〃
昇任				
筑摩神社	兼　宮司	林　邦匡	五・一	松塩筑
武水別神社	本　禰宜	武井　祥憲	六・十五	更　級
三嶽神社	本　宮司	宇治橋牧子	七・一	松塩筑
新任				
大宮神社	宮司	近藤　保三	一・一	上水内
諏訪神社	宮司	鷹野　巽	一・十五	南佐久
西宮神社	禰宜	丸山　智	四・十五	長　野
熊野神社	禰宜	池田　和行	五・一	木　曽
鹽竈神社	権禰宜	星　貴史	五・一	松塩筑
和泉神社	権禰宜	中村美和子	七・一	松塩筑
本務替				
天満社（愛知県　熱田神宮より）	本　宮司	大澤　泰紀	二十五・十二・十五	飯　水
生島足島神社（東京都　乃木神社より）	本　権禰宜	宮原　久	四・一	上　小
山家神社（諏訪大社より）	本　宮司	押森　慎	四・一	上　小
正八幡宮（十五社より）	本　宮司	五十嵐文吾	四・一	諏　訪
出早雄小萩神社（十五社より）	本　宮司	五十嵐　輝	四・一	諏　訪
吉野神社（有明山神社より）	本　宮司	角田　朝壽	四・一	南安曇
野々宮社（筑摩神社より）	本　宮司	中村　欽	五・一	松塩筑
辞職				
高岡神社	兼　宮司	近藤　博美	二十五・十二・三十一	上水内
小玉神社	〃	〃	〃	〃
平出神社	〃	〃	〃	〃
八幡社	〃	〃	〃	〃
諏訪神社	兼　宮司	鷹野　健	一・十四	南佐久
諏訪神社	兼　宮司	野黒　重央	三・三十一	長　野
十五社	兼　宮司	五十嵐文吾	三・三十一	諏　訪
小部澤社	〃	〃	〃	〃
津島社	〃	〃	〃	〃
十五社	禰宜	五十嵐　輝	三・三十一	諏訪
八幡宮	兼　宮司	小平　弘起	三・三十一	南安曇
洲波神社	兼　禰宜	小平　和彦	三・三十一	南安曇
諏訪大社	権禰宜	押森　慎	三・三十一	諏　訪
有明山神社	禰宜	角田　朝壽	三・三十一	南安曇
筑摩神社	宮司	中村　欽	四・三十	松塩筑
退職				
武水別神社	権禰宜	松澤　敏光	二十五・十二・十五	更　級
大宮神社	宮司	近藤　博美	二十五・十二・三十一	上水内
熊野皇大神社	権禰宜	小林　隆大	二・二十八	北佐久

帰幽　謹んで御霊の安らかなることをお祈りいたします

奉務神社　職名	階位・身分	氏名	帰幽日	支部名
和泉神社宮司	正・二上	遠藤　和正	二・二十五	松塩筑
諏訪大社名誉宮司	浄・特	瀧川　謙一	四・三	諏　訪

平成26年度長野県神社庁歳入歳出予算書

歳入の部　（単位：円）

款	科目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	幣帛幣饌料	750,000	750,000	0	神社本庁より
2	交付金	102,358,000	102,838,000	△480,000	本庁交付金
3	負担金	32,105,000	32,165,000	△60,000	支部負担金、神社負担金、神職負担金、特別寄贈金
4	協賛金	6,170,000	6,390,000	△220,000	特別協賛金、寄付金
5	財産収入	50,000	50,000	0	財産利子配当金
6	補助金	120,000	120,000	0	神社本庁より参事給与補助金
7	各種証明料	2,920,000	2,920,000	0	神職任命・登録料、承認料、各種手数料・証明料、階位授与交付金
8	諸収入	2,500,000	2,500,000	0	賽物収入、雑収入
9	管理費収入	550,000	610,000	△60,000	庁舎管理費収入、関係団体管理費収入
10	過年度収入	200,000	200,000	0	
11	繰越金	18,937,000	19,057,000	△120,000	
	合計	166,660,000	167,600,000	△940,000	

歳出の部

款	費目	予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	神宮神徳宣揚費交付金	48,447,033	48,724,337	△277,304	支部を通じて各神社へ
2	幣帛幣饌料	8,250,000	8,250,000	0	別表及特別神社、本務・兼務神社、献幣使参向神社、幣饌料供進神社、献幣使・随員旅費等
3	会議費	4,500,000	4,500,000	0	会議旅費、諸費
4	庁務費	43,950,000	42,868,000	1,082,000	神事費、儀礼費、役員報酬、諸給与及び福利厚生費、需要費
5	負担金	25,906,320	26,026,080	△119,760	神社本庁へ
6	事業費	17,966,000	18,116,000	△150,000	大麻関係費、教化部費、庁報発行費、神社振興対策費、職員研修費、東海五県連合会費等
7	研修諸費	200,000	200,000	0	神社庁研修諸費
8	庁舎維持費	1,160,000	1,160,000	0	修繕費、設備費、火災保険費
9	交付金	3,400,000	3,400,000	0	神職会、総代会、災害慰藉特別会計各交付金
10	積立金	4,000,000	4,000,000	0	基本金積立金、役職員退職積立金、五県連合総会積立金、神道島揚資金積立金等
11	補助金	50,000	50,000	0	時局対策費
12	予備費	8,830,647	10,305,583	△1,474,936	
	合計	166,660,000	167,600,000	△940,000	

平成26年度長野県神社庁災害救助慰藉特別会計歳入歳出予算書

歳入の部　（単位：円）

	科目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	負担金	3,330,000	3,350,000	△20,000	支部負担金、神職掛金
2	繰入金	700,000	700,000	0	神社庁、総代会、神職掛金積立金
3	本庁見舞金	1,000	1,000	0	
4	雑収入	1,000	1,000	0	雑収入
5	繰越金	1,202,000	1,202,000	0	
	合計	5,234,000	5,254,000	△20,000	

歳出の部

	費目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減△	附記説明
1	災害慰藉費	2,986,000	2,986,000	0	神社災害慰藉費、神社総代慰藉費、神職災害慰藉費
2	神職掛金	2,130,000	2,150,000	△20,000	神職掛金積立金
3	本庁災害慰藉費	58,000	58,000	0	災害対策資金
4	運営費	60,000	60,000	0	事務費、旅費、雑費
	合計	5,234,000	5,254,000	△20,000	

暑中見舞

諏訪大社

松本市

四柱神社

宮司　宮坂信廣
他職員一同

http://www.go.tvm.ne.jp/yohashira

生島足島神社

宮司　武藤美登
他職員一同

深志神社

宮司　遠藤久芳
他職員一同

諏訪市茶臼山鎮座

手長神社

宮司　宮坂清

戸隠神社

宮司　藤井茂信
他職員一同

穂高神社

名誉宮司　穂高守
宮司　小平弘起
職員一同

武水別神社

宮司　堀内潔人
他職員一同

松本市美須々六番一号

長野縣護國神社

宮司　奥谷一文
他職員一同

若一王子神社

宮司　竹内直彦

大町市大字大町二〇九七

木曽総社

御嶽神社

宮司　武居哲也

木曽御嶽王滝

御嶽神社

名誉宮司　滝重則
宮司　滝和人

軽井沢町峠鎮座

熊野皇大神社

宮司　水澤光男
祢宜　水澤貴文
総代会長　土屋一人

飯田市浜井町
破魔射場鎮座

冨士山稲荷神社

宮司　市原貴美雄
職員総代一同

佐久総社

新海三社神社

宮司　井出行則
総代会長　水澤重雄

佐久市田口鎮座

軽井沢町旧軽井沢鎮座

諏訪神社

宮司　水澤光男
祢宜　水澤貴文
総代会長　渡辺盛夫

軽井沢町中軽井沢鎮座

長倉神社

宮司　水澤光男
祢宜　水澤貴文
総代会長　佐藤静雄

上田市常田鎮座
総社大宮

科野大宮社

宮司　今井正昭
総代会長　伊藤一夫

上田市
眞田三代崇敬社

大星神社

宮司　関口守和
祢宜　工藤康高
総代長　岡崎敏

長野県神社庁

顧問　唐沢忠孝

上伊那郡箕輪町三日町一八三八

暑中見舞

飯山市小菅の里鎮座
小菅神社
宮司　鷲尾隆男
総代会長　真島昭一

上伊那郡辰野町
三輪神社
宮司代務者　矢島正稔

上伊那郡飯島町
梅戸神社
宮司　今井泰
祢宜　茅野理也
権祢宜　今井佑

上伊那郡辰野町小野
矢彦神社
宮司　立澤寿江
祢宜　立澤俊輔
総代会長　赤羽利雄

大御食神社
宮司　富岡武彦
祢宜　白鳥俊明
権祢宜　白鳥操子
総代会長　赤須弘侑

上伊那郡箕輪町三日町
御射山三社
宮司　唐沢克忠
祢宜　唐沢光忠
総代会長　小沢善一

木曽郡木曽町福島鎮座
水無神社
名誉宮司　宮田正士
宮司　宮田利彦

国選定重要建造物群宿場街
中山道奈良井宿
鎮座　鎮神社
宮司　巣山清人
総代会長　永井康宏

あづみ野
住吉神社
宮司　飯田泰之
氏子総代会長　塚原尚

松本市梓川梓鎮座
大宮熱田神社
宮司　山田充春

上水内郡小川村小根山鎮座
小川神社
宮司　宮下俊樹
祢宜　太田陽一
総代長　増田幸成

七二会鎮座
式内社
守田神社
宮司　矢澤龍一
主任総代　北島貢
会計　成田好雄

長野県敬神婦人連合会顧問
長野県女子神職会顧問
安國神社祢宜
長坂りん
下高井郡木島平村

木曽郡木曽町開田高原西野
八幡宮
宮司　神田肇
祢宜　神田ゆき乃

長野市箱清水鎮座
湯福神社
宮司　齋藤安彦
祢宜　齋藤英之

長野市城山鎮座
健御名方富命彦神別神社
宮司　齋藤吉睦

長野市東町鎮座
武井神社
宮司　齋藤吉睦

長野市上松鎮座
信濃招魂社
宮司　齋藤吉睦

長野市松代町鎮座
象山神社
宮司　瀧澤基
祢宜　瀧澤けい子
権祢宜　瀧澤理恵

岡谷市小井川鎮座
小井川賀茂神社
宮司　有賀寛典

暑中見舞

飯田市八幡町一九九九
鳩ヶ嶺八幡宮
（重要文化財誉田別尊神像）
宮司 伊原義雄
氏子総代長 木下洋亮

国宝
仁科神明宮
大町市社宮本
宮司 松井秀吾
総代会長 松田一穂

伊那市荒井区
荒井神社
宮司 唐沢克忠
祢宜 唐沢光忠
総代会長 久保村友保

長野市岩石町鎮座
えびすの神
西宮神社
宮司 丸山肇
役員総代一同

安曇野市穂高有明字宮城
彫刻で名高き裕明門
有明山神社
宮司 等々力満

塩尻市中西條鎮座
三嶽神社
宮司 宇治橋牧子
祢宜 宇治橋克彦
権祢宜 宇治橋邦彦

塩尻市北小野鎮座
小野神社
宮司 宇治橋淳
祢宜 宇治橋邦彦
総代会長 小口清太

長野県女子神職会顧問
神明宮宮司
永持はな子

全国女子神職協議会参与
長野県敬神婦人連合会会長
長野県女子神職会顧問
柴神社宮司
瀧澤けい子

箕輪南宮神社
宮司 唐沢克忠
祢宜 唐沢光忠
総代会長 山本勝
箕輪町大字中箕輪木下

伊那市御園区鎮座
白山社
宮司 伊藤光宣

長野市三輪鎮座
美和神社
宮司 齋藤吉睦
権祢宜 矢澤龍一

駒ヶ根市赤穂鎮座
大宮五十鈴神社
宮司 白鳥俊明
祢宜 白鳥操子
http://isuzu.jinja.jp/

長野市大町鎮座
長沼神社
宮司 長沼忠行
祢宜 長沼房子
権祢宜 長沼誠一

上伊那郡南箕輪村
殿村八幡宮
宮司 唐沢克忠
祢宜 唐沢光忠
総代会長 倉田龍一

長野市松代町皆神山
熊野出速雄神社
（皆神神社）
宮司 武藤登
外職員一同

奥州一之宮鹽竈神社御分社
鹽竈神社
宮司 大澤明三
祢宜 大澤節子
権祢宜 星貴史
総代会長 藤森昭三

安曇野市豊科南穂高
洲波神社
宮司 宮澤民雄

飯山市五束鎮座
（国重文若宮八幡社）
健御名方富命彦神別神社
宮司 髙橋勸穣
祢宜 髙橋穣
総代会長 伊澤春一

佐久市臼田鎮座
稲荷神社
宮司 伴野健一
総代会長 井出徳三

総代・一般向け神社・神道専門書籍のご紹介

神道いろは

神社本庁教学研究所監修
本体一、五〇〇円＋税
B6判／242頁　神社新報社刊

神社関係の新聞『神社新報』紙上で連載された「神道いろは」を単行本化。氏子総代などを対象にした神道・神社・祭りの質問150問を平易に解説。
神社関係者必読の神道入門書です。

神社のいろは

神社本庁監修　本体一、六一九円＋税
A5判／184頁　扶桑社

神道・神社の入門書。Q&A方式で平易に解説。読めば楽しい神社入門書の決定版です。参拝作法から、神様、お祭り、歴史まで、日本人なら知っておきたい神社のすべて。一冊読めば神社がますます楽しくなる！神社本庁の関係団体である「(財) 日本興隆財団」が主催している「神社検定」の公式テキストでもあります。

［図解］神道としきたり事典

茂木貞純監修　本体一、六〇〇円＋税
A5判／174頁　PHP出版

本書は、節分、雛祭り、端午の節供、七夕、月見、七五三など年中行事の由来と変遷のほか、神社の成り立ちと歴史、参拝の正しい作法、冠婚葬祭、日本の神々の基礎知識、代表的な神社案内など神道のすべてを図解入りで詳しく解説しています。
神道は仏教伝来以前から古代人が営んでいた日本人本来の信仰。自然の恵みを受け、自然に感謝を捧げるなかで神の存在を感じてきた日本人の暮らし方を、本書でいま一度見つめ直しましょう。

書籍の注文は下記の神社新報社へ

書き込み式　祝詞練習帳

神社参拝のすがすがしさを書いて味わう

6月と12月の晦日に神社で行われる「大祓式」で奏上する「大祓詞（おおはらえことば）」を平易に解説。大祓詞は1300年以上にわたって伝えられてきた罪や穢れを祓い清める祝詞です。30の節にわけて解説と書き込み練習をつけているので、一日一節ずつ、30日でひととおり練習ができます。ボールペンと筆（筆ペン）の両方で練習ができます。
湯島天満宮権禰宜小野善一郎解説／書家　高木雛書
本体1,000円＋税
B5判変形／175頁／扶桑社刊

神道文化叢書6　皇室の御敬神

宮中祭祀の理解を深める貴重な一冊。昭和天皇御即位年の佳節に出版された本書が復刊。
宮中で天皇陛下が親しく斎行されている祭祀の様子を窺い知ることのできる貴重な図書。神社本庁関係団体である神道文化会刊。
川出清彦著
700円＋税
新書判／118頁
神道文化会刊

神社と神様がよ～くわかる本

神社と神様の秘密を様々な視点から紹介した入門書。本書は、神社とはなにか、神宮/大社/大神宮/八幡/稲荷など同じ神社なのになぜ呼び方が違うのか、なぜ神様のことを「柱」と数えるのか、社殿や拝殿の建築様式、「祭り」の語源やルーツ、神前結婚式のはじまり、デパートやビルの屋上に神社がある理由など神社の“なぜ？”を写真もまじえながら解説しています。
藤本頼生著
本体1,400円＋税
A5判／232頁
秀和システム刊

日本人と神様
—ゆるやかで強い絆の理由—

身近なのによく知らない、知らないのになぜか親しい。日本人と神様の不思議な関係を解き明かす！神社祭祀研究の泰斗が、日本人のユニークな神様観、神社の成り立ち、そしてこれからの時代の神様とのつき合い方について、わかりやすく語ります。日本人独特の神様とのつき合い方がわかる1冊。
「是非、総代さんに読んでもらいたい」（著者談）
櫻井治男著
本体780円＋税
新書判／184頁
ポプラ社刊

ご注文は…

神社関係の新聞社　神社新報社　〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-1-2　電話03-3379-8212　FAX03-3379-8213

送料400円／5,000円以上で送料無料
インターネットでの注文は…神社神報社直営店BOOKS 鎮守の杜

BOOKS 鎮守の杜

「鎮守の杜」で検索！
http://books.jinja.co.jp/

「探しています」『神州』バックナンバー

右記の庁報のバックナンバーを探しています。
お持ちの方は神社庁内庁報編集委員会までご連絡下さい。

記

○第１号（昭和29年発行）　○第２号（昭和29年発行）
○第３号（昭和30年発行）　○第49号（昭和54年発行）
○第53号（昭和56年発行）